

閉会挨拶

就職問題委員会委員長 中 明 夫 氏
(大阪成蹊短期大学理事長)

これで漸く今年度の就職担当者研修会が終了です。3日間、本当にお疲れ様でした。初日に私の挨拶の中で申し上げましたが、この研修会に受身で、何か知識を吸収するというために参加するのではなく、今回のプログラムのそれぞれの内容について、参加された皆さんが、就職担当者としてこれからの仕事に生かしていくために、活用していただきたいとお話させていただきました。グループ討議の担当の運営委員からお話を聞きますと、お互い非常に活発にご意見を出し合って、とても有意義に盛り上がった討議ができたと聞いております。私ども、このプログラムを作成し、運営させていただきました代表者として厚くお礼を申し上げたいと思います。

まとめの話をするつもりはありませんが、あらためて情報技術の発達、今、仕事のやり方、労働マーケットに革命的な変化を起こしているという話を講師の諸先生から伺いました。このことは、アメリカのある学者が産業革命に匹敵するような革命的な時代に入っているとも表現されています。私自身、情報技術の飛躍的な発展が企業の人材の採用にも、ものすごく変化を来していると感じています。おそらく就職を担当されている先生方もそのような感じておられる方がほとんどではないかと思えます。このような時代に入った中で、高等教育機関の一つとして、どのように入学してくる学生たちに教育をし、社会に送り出していったらいいのか。これから、大学の中でさまざまな教育改革を進めていかれると思います。その際、就職の送り出しを直接担当していただいている皆様方が、社会が求める人材を一番初めにキャッチされる担当者として、大学において教育していただく先生方にきっちりとフィードバックして伝えていただかなければ何にもならないと思います。是非、今回の研修会の体験を参考に、あるいは生かしていただき、それぞれの大学で、改革の騎士となってお帰りいただきたい。そしてそれを一年間生かし、来年またこの研修会でお会いしたいと思います。本当にどうも有難うございました。